

第3回通学路の更なる安全対策検討会（R5.1.24 開催分）

会議録要旨

第3回検討会において、事務局より検討項目1から5について、これまでに開催・実施した有識者懇談会、作業部会等を踏まえた、ハード対策・ソフト対策それぞれの検討結果を報告し、意見交換を行った。検討結果としてとりまとめた内容について、委員より承認され、取組方針として決定した。今後、予算措置等を行うとともに、引き続き、関係機関等と協議・調整を行い、対策及び事業を実施していくこととなった。なお、会議体としては、今回をもって終了とする。

以下、検討会における主な意見

（構成員）

- ・今回、重点対策箇所として設定した131箇所については、速やかに短期対策を実施し、中長期対策については、引き続き議論を進め、更なる安全性の向上に努めていきたい。また、道路側のハード対策に限らず、ASVのような自動車側の先進技術による交通安全対策についても、多方面に投げかけて、総合的に改善できればと考える。
- ・今回の事故は、子どもが交通ルールを守っていたにもかかわらず、自動車側の信号無視により起きてしまった悲惨な事故であり、このような事故が二度と起こらないように、遵法意識の向上を目的とした新たな啓発活動に取り組んでいきたい。
- ・子ども向け教育の強化として、コンテンツづくり等を含めて、交通安全指導をより徹底していきたい。
- ・これまでも地域の方々を始めとして、現場では通学横断時など交通安全に尽力してもらっている。引き続き、関係機関で連携して取り組んでいきたい。
- ・子どもたちに対し、交通安全を守るだけでは事故は防げないことを知らせることは強い衝撃ではあるが、自ら命を守る行動をとってもらうために関係各局力を合わせて実行していく必要がある。
- ・本検討会における取組方針を現場に携わる地域や関係機関とも共有し、子どもたちを始めとする市民の交通安全を守れるように、皆で力を合わせて進めていきたい。

（オブザーバー）

- ・名古屋市内は比較的広い道路が多く、ラウンドアバウトの効果をより一層発揮できる箇所があると考え。まずは、そういった適所にラウンドアバウトを導入し、市民の方々から理解を得ていき、段階的に展開していくことが順当であると考え。
- ・道路には、それぞれ道路規格や利用形態など様々な道路特性があるため、今後も、それぞれの道路、交差点に応じたメリハリのある対策を実施していくことに期待している。
- ・子どもたちの未来を見据えて安全・安心な名古屋市であり続けるように、県警としても、今後、本取組みを始めとして市と協力して取り組んでいきたいと考える。
- ・重点対策箇所に国管理道路がある場合は、市と協力しながら対応していきたい。

（市長）

- ・名古屋市は都市政策の中で、生活道路まで区画整理をしたことで、広い生活道路が多い。そのような道路では直線的にスピードが出せないように、もっと通りにくくすることが必要である。今回の本検討が、その第一歩と捉え、その一つの方策として、ラウンドアバウトがあると考え。
- ・路面表示による対策は、交通安全上、効果的ではあるものの、抜本的な対策ではない。信号機を守る前提の交通ルールは危険であり、道路でも物理的に車を遮断することを考えるべき。
- ・「一人の子どもも死なせないナゴヤ」として、皆で取り組んでいきたい。